

「インクルーシブ教育を進める学級づくり—包括的な生徒指導を進めていく、その理論と実践—」

講師：栗原慎二氏(広島大学人間社会科学研究科教授 AISES『学校教育開発研究所』代表理事)

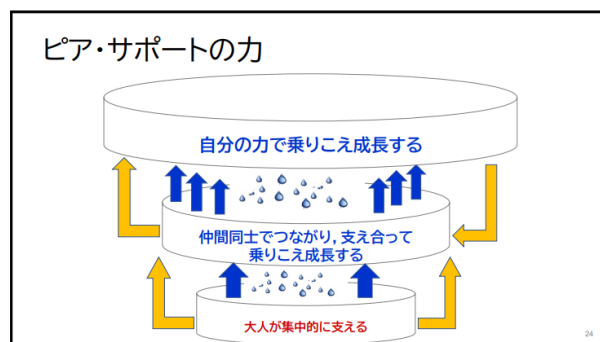
日時・形式：6月25日(日) 9時~12時 オンライン(Zoom)

子どもたちの実態の変化とインクルージョンの必要性

研修会は、栗原先生ご自身の実践を紹介して下さりながら、終始和やかな雰囲気で行われました。はじめに、不登校、いじめ、校内暴力などの詳細なデータが示され、その後、少人数でのグループワークを重ねながら、今子どもたちに何が起きているのか、誰一人取り残すことのない学級づくり・授業づくりのために必要なことについて、対話的に考えてゆきました。しゃべり続ける子、言いたいことも言わない子、自分のことだけ要求する子などをメンバーが演じながらクラスへの要望を出し合うワークでは、紛糾を実感したり、1つのやり方では無理だということに気づいたりするなど、いろいろな子どもがいる学級を誰一人取り残すことなく学級づくりする難しさを改めて実感しました。

時代が求める学級づくりと学級づくりの方向性

後半は、学級づくりのいくつかの理論を、栗原先生が入っていらっしゃる地域の実践を交えながら解説してくださいました。ソーシャル・ボンド理論、コーエンの社会的欲求理論をもとにして、子どもたちの絆を、子どもの発達段階に即して、組織的計画的に育てていくことが大事であると解説されました。そして、



で、自分の力で乗り越え成長することに躓いた子どもを大人が集中的に支える「雨もりモデル」を超えるモデルとして、その前に仲間同士でつながり、支え合って乗り越え成長するピア・サポートの力(右上図)が働く仕組みづくりが大事であると力説されました。

「いろんな奴がいて、誰もが伸びる環境を考える。そのために話を聞く、一緒に考える、これでうまくいかなかったことはない」との冒頭の語りにあったように、はずれてしまう子や特性のある子を入れるのではなく、最初からいろいろな子がそれぞれに楽しめる、伸びる場を求めて取り組んできたことが今の栗原先生の実践や研究につながっており、インクルーシブな学級づくり・授業づくりのための本質に向き合うことができた、あっという間の3時間でした。栗原先生、本当にありがとうございました。

参加者の声

グループワークの時間と回数が多く、主体的・協働的に考える機会を多く与えていただき刺激になりました。子どもたちが仲間同士でつながり支え合いながら成長するために、大人は何をしたらよいのか、あるいはほしくないほうがいいのか。今後も研鑽につとめようと改めて思いました。

次回研修会(第2回)

2023年7月23日(日) 9時~12時

「授業づくりワークショップ」

講師：本田恵子氏(早稲田大学教授)

高橋あつ子氏(早稲田大学教授)